

計画事業番号	0004910	事務事業名	消防施設整備事業(消防局)		
所属部	企画総務部	所属課	企画財政課	担当・係	営繕
章	消防施設の整備	節	消防署所の整備	主要施策	消防施設の適正整備

1. 事業内容

(1)事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

- ①消防組合施設整備計画に関すること。
- ②消防施設の整備に関すること。(確認申請の必要な建築行為を企画財政課で所管)
- ③営繕工事の設計及び監督に関すること。
- ④消防施設の建設及び維持管理に関すること。

(2) 事務事業の分析と指標

① 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	② 手段(どのような方法で実施するのか)	③ 結果(どんな結果に結び付けるのか)
消防組合が管理する消防庁舎	施設整備計画に基づき施設の整備を進める。	災害活動拠点施設としての機能を維持保全するとともに、施設の長寿命化を図る。

(3) 事業費

決算額(千円)	令和3年度	1,135
---------	-------	-------

2. 事後評価の部

(1)指標名	実績の推移																					
施設整備計画に基づき整備する整備件数(基準値は、令和6年度までに整備する整備件数)	<table border="1"> <caption>実績の推移 (推定値)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>計画値</th> <th>実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基準値</td> <td>25</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>8</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>11</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>H31</td> <td>14</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>15</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>18</td> <td>21</td> </tr> </tbody> </table>	年度	計画値	実績値	基準値	25	0	H29	8	8	H30	11	13	H31	14	16	R2	15	19	R3	18	21
年度	計画値	実績値																				
基準値	25	0																				
H29	8	8																				
H30	11	13																				
H31	14	16																				
R2	15	19																				
R3	18	21																				
単位																						
件																						

(2)現状分析

設 問	分析			
	3	2	1	
法令に基づき、義務付けられている事業である。	義務付けられている		義務付けられていない	1
国や県、民間ではなく、市が主体的に実施すべき事業である。	実施しなければならない	実施すべきである	実施する必要性は低い	3
市民・団体・議会等から要望や要請がある事業である。	多くの要望等がある	要望等がある	要望等はない	2
社会情勢の変化などにより、事業開始時の目的が変化している。	変化していない	若干変化している	変化している	3
「施策」の目的を実現するために有効な事業である。	非常に有効である	有効である	あまり有効ではない	3
事業の成果を示すデータがあり、実績がある。	把握している	把握不可能である	把握していない	3
類似事業はなく、統合など再構築した中では実施できない。	実施不可能である	検討の余地がある	実施可能である	3
サービス水準を落とさずにコスト削減や効率的運営はできない。	実施不可能である	検討の余地がある	実施可能である	2
実施に当たって民間委託や市民との協働の余地がある。	余地がない	余地がある	多くの余地がある	3

(3)事務事業の評価

これまでの主な取組と成果

庁舎の状況に応じた内容へと施設整備計画を改訂することにより、限られた財源の中で施設の長寿命化及び機能強化を図るために、効率的な施設整備計画を策定することができた。

今後の課題(未達成の課題等)

今後20年間で消防庁舎の95%が築年数30年以上となり、老朽化した施設の改修等に多額の費用を要することが予想されることから、より実効性のある施設整備計画の見直しが必要となる。このため、消防需要及び管内人口等の変化に伴う施設整備の優先度を考慮し、施設整備に係る財政負担と効果を適正に見極め、地域の防災拠点としての機能強化を図る必要がある。

今後の展開

今後の展開	今後の取組方針
A 重点化・拡大して継続	消防庁舎の現状及び財政状況を勘案した消防施設の改修及び長寿命化を図る必要があるため、総合管理計画、長期財政計画及び施設整備計画に基づき、今後の消防・救急需要を見据えた施設の総合的な整備の効果と評価分析を実施し、効率的な施設整備を進める。
B 現状のまま継続	
C 見直しして継続	
D 休止・廃止等	

計画事業番号	0004916	事務事業名	消防施設管理事業(消防局指令管理課)		
所属部	警防部	所属課	通信指令センター 指令管理課	担当・係	庶務管理
章	消防施設の整備	節	消防署所の整備	主要施策	消防庁舎の適正管理

1. 事業内容

(1) 事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

- ① 通信指令センターの保守管理に関すること。
- ② 通信指令センターの整備に関すること。(確認申請が必要な建築行為を除く。)

(2) 事務事業の分析と指標

① 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	② 手段(どのような方法で実施するのか)	③ 結果(どんな結果に結び付けるのか)
通信指令センター	通信指令センターの経年劣化状況と施設管理委託の結果から、重要度(安全性・公共性)に応じた修繕及び改修を行う。	通信指令センターを安全かつ良好な状態で維持保全することで建物の延命化やライフサイクルコストの削減を図る。

(3) 事業費

決算額(千円)	令和3年度	9,028
---------	-------	-------

2. 事後評価の部

(1) 指標名: 修繕計画に基づく施設の修繕又は工事の達成率

実績の推移

年度	計画値 (%)	実績値 (%)
基準値	100	100
H29	100	100
H30	100	100
H31	100	100
R 2	100	100
R 3	100	100

単位: %

(2) 現状分析

設 問	分 析			1
	3	2	1	
法令に基づき、義務付けられている事業である。	義務付けられている		義務付けられていない	1
国や県、民間ではなく、市が主体的に実施すべき事業である。	実施しなければならない	実施すべきである	実施する必要は低い	2
市民・団体・議会等から要望や要請がある事業である。	多くの要望等がある	要望等がある	要望等はない	1
社会情勢の変化などにより、事業開始時の目的が変化している。	変化していない	若干変化している	変化している	3
「施策」の目的を実現するために有効な事業である。	非常に有効である	有効である	あまり有効ではない	2
事業の成果を示すデータがあり、実績がある。	把握している	把握不可能である	把握していない	2
類似事業はなく、統合など再構築した中では実施できない。	実施不可能である	検討の余地がある	実施可能である	1
サービス水準を落とさずにコスト削減や効率的運営はできない。	実施不可能である	検討の余地がある	実施可能である	2
実施に当たって民間委託や市民との協働の余地がある。	余地がない	余地がある	多くの余地がある	3

(3) 事務事業の評価

これまでの主な取組と成果

施設の機能維持及び長寿命化を図るための保守点検や修繕を実施して、通信指令センターの機能を維持した。

- ・保守点検などの委託件数5件(延べ回数16回)
- ・修繕件数5件

今後の課題(未達成の課題等)

通信指令センターは、災害活動拠点施設としての重要な役割を担っており、竣工後10年以上が経過していることから、機能維持のために、効果的な修繕が必要である。

また、令和6年度からの消防指令業務共同運用事業開始に伴い、当施設の利活用について検討が必要である。

今後の展開

今後の展開	今後の取組方針								
<table border="1"> <tr> <td>A 重点化・拡大して継続</td> <td></td> </tr> <tr> <td>B 現状のまま継続</td> <td> 1 大幅な見直しは必要ない 2 見直しには法令等の改正が必須 3 見直しの必要性はあるが時期尚早 4 現状では見直しが不可能 </td> </tr> <tr> <td>C 見直して継続</td> <td> 1 見直し・縮小 2 他事業との整理・統合 </td> </tr> <tr> <td>D 休止・廃止等</td> <td> 1 休止 2 廃止 3 完了 </td> </tr> </table>	A 重点化・拡大して継続		B 現状のまま継続	1 大幅な見直しは必要ない 2 見直しには法令等の改正が必須 3 見直しの必要性はあるが時期尚早 4 現状では見直しが不可能	C 見直して継続	1 見直し・縮小 2 他事業との整理・統合	D 休止・廃止等	1 休止 2 廃止 3 完了	通信指令センターを安全かつ良好な状態で機能維持するために、保守点検の結果等を踏まえて、計画的な修繕を実施するとともに、当施設の利活用について検討する。
A 重点化・拡大して継続									
B 現状のまま継続	1 大幅な見直しは必要ない 2 見直しには法令等の改正が必須 3 見直しの必要性はあるが時期尚早 4 現状では見直しが不可能								
C 見直して継続	1 見直し・縮小 2 他事業との整理・統合								
D 休止・廃止等	1 休止 2 廃止 3 完了								

計画事業番号	0004920	事務事業名	消防施設管理事業(所沢中央消防署)		
所属部	所沢中央消防署	所属課	消防管理課(中)	担当・係	庶務
章	消防施設の整備	節	消防署所の整備	主要施策	消防庁舎の適正管理

1. 事業内容

(1) 事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

- ① 署の施設の保守管理に関すること。
- ② 署の施設の整備に関すること。(確認申請が必要な建築行為を除く。)
- ③ 消防庁舎の使用許可に関すること。

(2) 事務事業の分析と指標

① 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	② 手段(どのような方法で実施するのか)	③ 結果(どんな結果に結び付けるのか)
署の管理する消防庁舎	消防庁舎の経年劣化状況と施設管理委託の結果から、修繕計画に基づき重要度(安全性・公共性)に応じた修繕及び改修を行う。	消防庁舎を安全かつ良好な状態で維持保全することで長寿命化やライフサイクルコストの縮減を図る。

(3) 事業費

決算額(千円)	令和3年度	41,103
---------	-------	--------

2. 事後評価の部

(1) 指標名	実績の推移
施設の修繕又は工事の達成率	
単位	%

(2) 現状分析

設 問	分析			
	3	2	1	
法令に基づき、義務付けられている事業である。	義務付けられている		義務付けられていない	1
国や県、民間ではなく、市が主体的に実施すべき事業である。	実施しなければならない	実施すべきである	実施する必要は低い	2
市民・団体・議会等から要望や要請がある事業である。	多くの要望等がある	要望等がある	要望等はない	1
社会情勢の変化などにより、事業開始時の目的が変化している。	変化していない	若干変化している	変化している	3
「施策」の目的を実現するために有効な事業である。	非常に有効である	有効である	あまり有効ではない	2
事業の成果を示すデータがあり、実績がある。	把握している	把握不可能である	把握していない	3
類似事業はなく、統合など再構築した中では実施できない。	実施不可能である	検討の余地がある	実施可能である	3
サービス水準を落とさずにコスト削減や効率的運営はできない。	実施不可能である	検討の余地がある	実施可能である	2
実施に当たって民間委託や市民との協働の余地がある。	余地がない	余地がある	多くの余地がある	3

(3) 事務事業の評価

これまでの主な取組と成果

消防庁舎の修繕及び改修を行い、消防庁舎の維持保全と長寿命化を図り、ライフサイクルコストの縮減が図れた。
 施設修繕19件(所沢中央消防署7件、三ヶ島分署7件、山口分署3件、消防総合訓練場訓練塔1件、三ヶ島・山口分署仮眠室1件)
 主な修繕内容(所沢中央消防署:1階トイレ系統屋外埋設排水管修繕、三ヶ島分署:屋根防水修繕、仮眠室改修修繕、山口分署:1階救急隊事務室空調修繕、仮眠室改修修繕)

今後の課題(未達成の課題等)

消防庁舎の多くが老朽化し、修繕及び改修に係る経費の増加が懸念される。

今後の展開

A 重点化・拡大して継続				B	1	今後の取組方針 常に施設の状況を把握し、計画的に修繕を実施する。
B 現状のまま継続	1 大幅な見直しは必要ない					
	2 見直しには法令等の改正が必須					
	3 見直しの必要性はあるが時期尚早					
C 見直しして継続	1 見直し・縮小					
	2 他事業との整理・統合					
D 休止・廃止等	1 休止					
	2 廃止					
	3 完了					

計画事業番号	0004930	事務事業名	消防施設管理事業(所沢東消防署)		
所属部	所沢東消防署	所属課	消防管理課(東)	担当・係	総務
章	消防施設の整備	節	消防署所の整備	主要施策	消防庁舎の適正管理

1. 事業内容

(1) 事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

- ① 署の施設の保守管理に関すること。
- ② 署の施設の整備に関すること。(確認申請が必要な建築行為を除く。)
- ③ 消防庁舎の使用許可に関すること。

(2) 事務事業の分析と指標

① 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	② 手段(どのような方法で実施するのか)	③ 結果(どんな結果に結び付けるのか)
署の管理する消防庁舎	消防庁舎の経年劣化状況と施設管理委託の結果から、重要度(安全性・公共性)に応じた修繕及び改修を行う。	消防庁舎を安全かつ良好な状態で維持保全することで長寿命化やライフサイクルコストの縮減を図る。

(3) 事業費

決算額(千円)	令和3年度	31,486
---------	-------	--------

2. 事後評価の部

(1) 指標名	実績の推移
施設の修繕又は工事の達成率	
単位	
%	

(2) 現状分析

設 問	分析			
	3	2	1	
法令に基づき、義務付けられている事業である。	義務付けられている		義務付けられていない	1
国や県、民間ではなく、市が主体的に実施すべき事業である。	実施しなければならない	実施すべきである	実施する必要は低い	2
市民・団体・議会等から要望や要請がある事業である。	多くの要望等がある	要望等がある	要望等はない	1
社会情勢の変化などにより、事業開始時の目的が変化している。	変化していない	若干変化している	変化している	3
「施策」の目的を実現するために有効な事業である。	非常に有効である	有効である	あまり有効ではない	2
事業の成果を示すデータがあり、実績がある。	把握している	把握不可能である	把握していない	3
類似事業はなく、統合など再構築した中では実施できない。	実施不可能である	検討の余地がある	実施可能である	3
サービス水準を落とさずにコスト削減や効率的運営はできない。	実施不可能である	検討の余地がある	実施可能である	2
実施に当たって民間委託や市民との協働の余地がある。	余地がない	余地がある	多くの余地がある	3

(3) 事務事業の評価

これまでの主な取組と成果

消防庁舎の修繕及び改修を行い、消防庁舎の維持保全と長寿命化やライフサイクルコストの縮減が図れた。
 施設修繕17件(所沢東消防署7件、富岡分署5件、柳瀬分署5件)
 主な修繕内容(所沢東消防署:オーバースライダー修繕、富岡分署:女子仮眠室洗濯機置場、柳瀬分署:グリストラップ修繕)

今後の課題(未達成の課題等)

消防庁舎の多くが老朽化し、修繕及び改修に係る経費の増加が懸念される。
 施設のほか、備品や設備の使用年数や劣化状況等の進行を予測する必要がある。

今後の展開		今後の取組方針		
A 重点化・拡大して継続			常に施設の状況を把握し、計画的な修繕を実施する。	
B 現状のまま継続	1 大幅な見直しは必要ない 2 見直しには法令等の改正が必須 3 見直しの必要性はあるが時期尚早 4 現状では見直しが不可能	B		
C 見直しして継続	1 見直し・縮小 2 他事業との整理・統合			1
D 休止・廃止等	1 休止 2 廃止 3 完了			

計画事業番号	0004940	事務事業名	消防施設管理事業(狭山消防署)		
所属部	狭山消防署	所属課	消防管理課(狭)	担当・係	管理
章	消防施設の整備	節	消防署所の整備	主要施策	消防庁舎の適正管理

1. 事業内容

(1) 事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

- ① 署の施設の保守管理に関すること。
- ② 署の施設の整備に関すること。(確認申請が必要な建築行為を除く。)
- ③ 消防庁舎の使用許可に関すること。

(2) 事務事業の分析と指標

① 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	② 手段(どのような方法で実施するのか)	③ 結果(どんな結果に結び付けるのか)
署の管理する消防庁舎	消防庁舎の経年劣化状況と施設管理委託の結果から、重要度(安全性・公共性)に応じた修繕及び改修を行う。	消防庁舎を安全かつ良好な状態で維持保全することで長寿命化やライフサイクルコストの縮減を図る。

(3) 事業費

決算額(千円)	令和3年度	30,109
---------	-------	--------

2. 事後評価の部

(1) 指標名	実績の推移																					
施設の修繕又は工事の達成率	<table border="1"> <caption>実績の推移 (達成率)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>計画値 (%)</th> <th>実績値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基準値</td> <td>100</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>100</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>100</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>H31</td> <td>100</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>R 2</td> <td>100</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>R 3</td> <td>100</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table>	年度	計画値 (%)	実績値 (%)	基準値	100	100	H29	100	100	H30	100	100	H31	100	100	R 2	100	100	R 3	100	100
年度	計画値 (%)	実績値 (%)																				
基準値	100	100																				
H29	100	100																				
H30	100	100																				
H31	100	100																				
R 2	100	100																				
R 3	100	100																				
単位																						
%																						

(2) 現状分析

設 問	分析			
	3	2	1	
法令に基づき、義務付けられている事業である。	義務付けられている		義務付けられていない	1
国や県、民間ではなく、市が主体的に実施すべき事業である。	実施しなければならない	実施すべきである	実施する必要は低い	2
市民・団体・議会等から要望や要請がある事業である。	多くの要望等がある	要望等がある	要望等はない	1
社会情勢の変化などにより、事業開始時の目的が変化している。	変化していない	若干変化している	変化している	3
「施策」の目的を実現するために有効な事業である。	非常に有効である	有効である	あまり有効ではない	2
事業の成果を示すデータがあり、実績がある。	把握している	把握不可能である	把握していない	3
類似事業はなく、統合など再構築した中では実施できない。	実施不可能である	検討の余地がある	実施可能である	3
サービス水準を落とさずにコスト削減や効率的運営はできない。	実施不可能である	検討の余地がある	実施可能である	2
実施に当たって民間委託や市民との協働の余地がある。	余地がない	余地がある	多くの余地がある	3

(3) 事務事業の評価

これまでの主な取組と成果

消防庁舎の修繕及び改修を行い、消防庁舎の維持保全と長寿命化やライフサイクルコストの縮減が図れた。
 施設修繕27件(狭山消防署14件、富士見分署6件、広瀬分署3件、水野分署4件)
 主な修繕内容(狭山消防署:給水設備受水槽定水位弁修繕、3分署仮眠室カーテン設置修繕)

今後の課題(未達成の課題等)

消防庁舎の老朽化が進み、修繕及び改修に係る経費の増加が懸念される。

今後の展開

今後の展開	今後の取組方針											
<table border="1"> <tr> <td>A 重点化・拡大して継続</td> <td></td> </tr> <tr> <td>B 現状のまま継続</td> <td>1 大幅な見直しは必要ない 2 見直しには法令等の改正が必須 3 見直しの必要性はあるが時期尚早 4 現状では見直しが不可能</td> </tr> <tr> <td>C 見直しして継続</td> <td>1 見直し・縮小 2 他事業との整理・統合</td> </tr> <tr> <td>D 休止・廃止等</td> <td>1 休止 2 廃止 3 完了</td> </tr> </table>	A 重点化・拡大して継続		B 現状のまま継続	1 大幅な見直しは必要ない 2 見直しには法令等の改正が必須 3 見直しの必要性はあるが時期尚早 4 現状では見直しが不可能	C 見直しして継続	1 見直し・縮小 2 他事業との整理・統合	D 休止・廃止等	1 休止 2 廃止 3 完了	<table border="1"> <tr> <td>B</td> <td>1</td> <td>消防庁舎を安全かつ良好な状態で維持保全するため、計画的な修繕を実施する。</td> </tr> </table>	B	1	消防庁舎を安全かつ良好な状態で維持保全するため、計画的な修繕を実施する。
A 重点化・拡大して継続												
B 現状のまま継続	1 大幅な見直しは必要ない 2 見直しには法令等の改正が必須 3 見直しの必要性はあるが時期尚早 4 現状では見直しが不可能											
C 見直しして継続	1 見直し・縮小 2 他事業との整理・統合											
D 休止・廃止等	1 休止 2 廃止 3 完了											
B	1	消防庁舎を安全かつ良好な状態で維持保全するため、計画的な修繕を実施する。										

計画事業番号	0004950	事務事業名	消防施設管理事業(入間消防署)		
所属部	入間消防署	所属課	消防管理課(入)	担当・係	管理
章	消防施設の整備	節	消防署所の整備	主要施策	消防庁舎の適正管理

1. 事業内容

(1) 事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

- ① 署の施設の保守管理に関すること。
- ② 署の施設の整備に関すること。(確認申請が必要な建築行為を除く。)
- ③ 消防庁舎の使用許可に関すること。

(2) 事務事業の分析と指標

① 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	② 手段(どのような方法で実施するのか)	③ 結果(どんな結果に結び付けるのか)
署の管理する消防庁舎	消防庁舎の経年劣化状況と施設管理委託の結果から、重要度(安全性・公共性)に応じた修繕及び改修を行う。	消防庁舎を安全かつ良好な状態で維持保全することで長寿命化やライフサイクルコストの縮減を図る。

(3) 事業費

決算額(千円)	令和3年度	47,160
---------	-------	--------

2. 事後評価の部

(1) 指標名	実績の推移
施設の修繕又は工事の達成率	<p>Legend: ■ 計画値 (Planned), ■ 実績値 (Actual)</p> <p>X-axis: 基準値, H29, H30, H31, R2, R3</p>
単位	%

(2) 現状分析

設 問	分 析			
	3	2	1	
法令に基づき、義務付けられている事業である。	義務付けられている		義務付けられていない	1
国や県、民間ではなく、市が主体的に実施するべき事業である。	実施しなければならない	実施するべきである	実施する必要は低い	2
市民・団体・議会等から要望や要請がある事業である。	多くの要望等がある	要望等がある	要望等はない	1
社会情勢の変化などにより、事業開始時の目的が変化している。	変化していない	若干変化している	変化している	3
「施策」の目的を実現するために有効な事業である。	非常に有効である	有効である	あまり有効ではない	2
事業の成果を示すデータがあり、実績がある。	把握している	把握不可能である	把握していない	3
類似事業はなく、統合など再構築した中では実施できない。	実施不可能である	検討の余地がある	実施可能である	3
サービス水準を落とさずにコスト削減や効率的運営はできない。	実施不可能である	検討の余地がある	実施可能である	2
実施に当たって民間委託や市民との協働の余地がある。	余地がない	余地がある	多くの余地がある	3

(3) 事務事業の評価

これまでの主な取組と成果

消防庁舎の修繕及び改修を行い、消防庁舎の維持保全と長寿命化を図り、ライフサイクルコストの縮減が図れた。
 施設修繕29件(入間消防署 17件、藤沢分署 3件、西武分署9件)
 主な修繕内容(入間消防署:自家用電気工作物機器交換修繕、藤沢分署及び西武分署:仮眠室改修修繕)

今後の課題(未達成の課題等)

消防庁舎の多くが老朽化し、修繕及び改修に係る経費の増加が懸念される。
 施設のほか、備品や設備の使用年数や劣化状況等を踏まえた予算計上が必要である。

今後の展開		今後の取組方針	
A 重点化・拡大して継続		B	1
B 現状のまま継続	1 大幅な見直しは必要ない 2 見直しには法令等の改正が必須 3 見直しの必要性はあるが時期尚早 4 現状では見直しが不可能		
C 見直しして継続	1 見直し・縮小 2 他事業との整理・統合		
D 休止・廃止等	1 休止 2 廃止 3 完了		

常に施設の状況を把握し、優先度を総合的に判断して、計画的な修繕を実施する。

計画事業番号	0004960	事務事業名	消防施設管理事業(飯能日高消防署)		
所属部	飯能日高消防署	所属課	消防管理課(飯)	担当・係	管理
章	消防施設の整備	節	消防署所の整備	主要施策	消防庁舎の適正管理

1. 事業内容

(1) 事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

- ① 署の施設の保守管理に関すること。
- ② 署の施設の整備に関すること。(確認申請が必要な建築行為を除く。)
- ③ 消防庁舎の使用許可に関すること。

(2) 事務事業の分析と指標

① 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	② 手段(どのような方法で実施するのか)	③ 結果(どんな結果に結び付けるのか)
署の管理する消防庁舎	消防庁舎の経年劣化状況と施設管理委託の結果から、重要度(安全性・公共性)に応じた修繕及び改修を行う。	消防庁舎を安全かつ良好な状態で維持保全することで長寿命化やライフサイクルコストの縮減を図る。

(3) 事業費

決算額(千円)	令和3年度	37,520
---------	-------	--------

2. 事後評価の部

(1) 指標名	実績の推移
施設の修繕又は工事の達成率	
単位	
%	

(2) 現状分析

設 問	分析			
	3	2	1	
法令に基づき、義務付けられている事業である。	義務付けられている		義務付けられていない	1
国や県、民間ではなく、市が主体的に実施すべき事業である。	実施しなければならない	実施すべきである	実施する必要は低い	2
市民・団体・議会等から要望や要請がある事業である。	多くの要望等がある	要望等がある	要望等はない	1
社会情勢の変化などにより、事業開始時の目的が変化している。	変化していない	若干変化している	変化している	3
「施策」の目的を実現するために有効な事業である。	非常に有効である	有効である	あまり有効ではない	2
事業の成果を示すデータがあり、実績がある。	把握している	把握不可能である	把握していない	3
類似事業はなく、統合など再構築した中では実施できない。	実施不可能である	検討の余地がある	実施可能である	3
サービス水準を落とさずにコスト削減や効率的運営はできない。	実施不可能である	検討の余地がある	実施可能である	2
実施に当たって民間委託や市民との協働の余地がある。	余地がない	余地がある	多くの余地がある	3

(3) 事務事業の評価

これまでの主な取組と成果

消防庁舎の修繕及び改修を行い、消防庁舎の維持保全と長寿命化やライフサイクルコストの縮減が図れた。
飯能日高消防署エレベーター基盤・電磁弁交換修繕、日高分署オーバードア修繕等、計23件実施

今後の課題(未達成の課題等)

消防庁舎の多くが老朽化し、修繕及び改修に係る経費の増加が懸念される。

今後の展開

A 重点化・拡大して継続				B	1	今後の取組方針 消防庁舎を安全かつ良好な状態で維持保全するため、計画的な修繕を実施する。
B 現状のまま継続	1 大幅な見直しは必要ない					
	2 見直しには法令等の改正が必須					
	3 見直しの必要性はあるが時期尚早					
C 見直しして継続	1 見直し・縮小					
	2 他事業との整理・統合					
D 休止・廃止等	1 休止					
	2 廃止					
	3 完了					